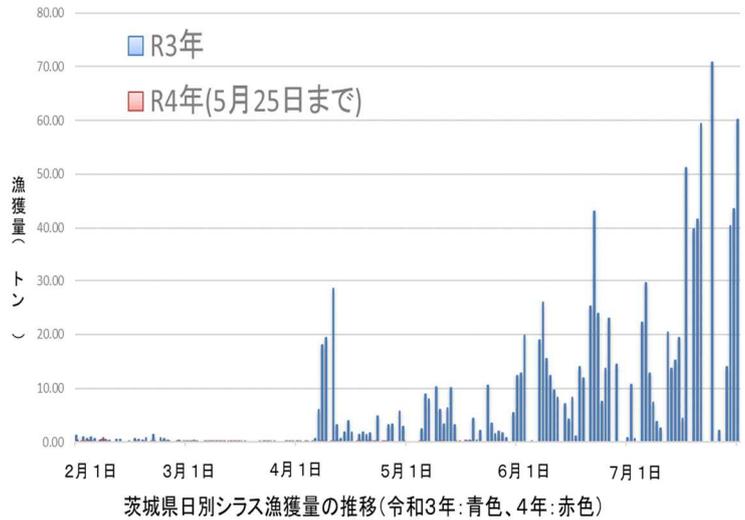


## 春シラス漁の漁況経過と見通し

### (1) 漁況経過

春シラス（2～7月）は、平成26年から好漁が続いていましたが、今年は2月上旬から獲れ始めたものの、その後、ほとんど漁獲がなく、5月10日にようやく4トンを超えるという近年まれにみる不漁水準となっています。昨年と日別漁獲量を比較すると右図のとおりになります。このような状況になったのは、3月10日頃から本県沿岸への親潮系冷水の差し込みが始まった後、4～8℃の冷水が2週間ほど留まり、4月11日に冷水域がなくなるまで、冷水の影響が続いたことが一因と考えています。



### (2) 今後の見通し

本県の6月と7月のシラス漁獲量は、海洋観測（会瀬～犬吠埼定線）10m深水温平均値が高いほど増加する傾向があります（右図）。

（国研）水産研究・教育機構が開発した水温予測システム（FRA-ROMS）6、7月の10m深水温予測（6月1日時点）では、現在、塩屋埼から北東へ流去している黒潮が、6月下旬頃、犬吠埼から北東へ流去する流れに変わり、黒潮流路の北限が南下すると予想されています。このため、本県沿岸への黒潮の影響が弱くなり、月間の平均水温は6月が17.1℃、7月が15.5℃と、昨年より2.7～6.5℃低い値を示しています。この水温値を右図に当てはめて漁獲量を予測すると6月は約250トン、7月は皆無となります。

また、平成元年以降、5月までの漁獲量が20トンに満たなかった年は、H10年、H16年、H17年、H24年の4回でした。このうち、3回は春シラス漁獲量が100トンに満たない不漁年となっていますので、5月までの漁況からも春シラス漁が不漁になる可能性が高いと考えています。

### (3) まとめ

FRA-ROMSによる予測では、10m深水温は6月中旬まで上昇するものの、その後、黒潮流路北限が南下して黒潮の影響が弱くなるとともに、親潮系冷水が差し込み水温は低め傾向で推移すること、さらに5月下旬になってもシラスの漁模様が好転していないことから、今年の春シラス漁獲水準は「不漁（～300トン）」と予測されます。

（回遊性資源部 茅根 正洋）

次号予告：R 4.6.17の「水産の窓」は「マコガレイ種苗の放流について」を予定しています。

